



Title	Hypertensive Disorders of Pregnancy in Relation to Coffee and Tea Consumption: The Japan Environment and Children' s Study
Author(s)	川西, 陽子
Citation	大阪大学, 2022, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/87738
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

論文内容の要旨
Synopsis of Thesis

氏 名 Name	川西 陽子
論文題名 Title	Hypertensive Disorders of Pregnancy in Relation to Coffee and Tea Consumption: The Japan Environment and Children's Study (エコチル調査を用いたコーヒー・茶類摂取と妊娠高血圧症候群の関連性の検討)
論文内容の要旨 〔目 的 (Purpose)〕 コーヒー・茶類の摂取と妊娠高血圧症候群の関連性はいまだに解明されていない。本研究では妊娠中のカフェイン・コーヒー・茶類と妊娠高血圧症候群について検討を行った。 〔方法ならびに成績 (Methods/Results)〕 本研究では、現在も進行中の日本の母子コホートであるエコチル調査に参加した85533人の単胎妊娠で生産した妊婦を対象とした。妊娠中の食事摂取量についての食事調査票を使用してコーヒー・茶類（緑茶・ウーロン茶・紅茶）およびカフェインレスのコーヒー・茶類の摂取量を計算し、さらに推定カフェイン摂取量をコーヒー・茶類摂取量に基づいて算出した。妊娠高血圧症候群との関連性の検討にあたっては多変量ロジスティック回帰分析を用いた。 妊娠高血圧症候群は、2222人（2.6%）で発症した。カフェイン摂取は、妊娠高血圧症候群のリスクと弱く関連を認め、カフェイン摂取量の四分位で最低位と比較して最高位で多変量オッズ比は1.26倍（95%信頼区間1.11-1.43）だった。1日2杯以上のコーヒー摂取をしている群ではコーヒー摂取をしない群と比較して多変量オッズ比は0.79倍（95%信頼区間0.62-0.99）と減少を認めた。茶類については、関連を認めなかった。 〔総 括 (Conclusion)〕 本研究から、カフェイン摂取が多いと妊娠高血圧症候群のリスクが上昇する一方で、コーヒーを摂取するとリスクが低下することが示唆された。コーヒーに含まれるカフェイン以外の物質が妊娠高血圧にたいして保護的に働く可能性がないかは、さらなる研究を要する。	

論文審査の結果の要旨及び担当者

(申請者氏名) 川西 陽子									
論文審査担当者	<table border="1"> <tr> <td>(職)</td> <td>氏 名</td> </tr> <tr> <td>主 査 大阪大学教授</td> <td>本村 正</td> </tr> <tr> <td>副 査 大阪大学教授</td> <td>瀬江 友子</td> </tr> <tr> <td>副 査 大阪大学教授</td> <td>飯部 聡</td> </tr> </table>	(職)	氏 名	主 査 大阪大学教授	本村 正	副 査 大阪大学教授	瀬江 友子	副 査 大阪大学教授	飯部 聡
(職)	氏 名								
主 査 大阪大学教授	本村 正								
副 査 大阪大学教授	瀬江 友子								
副 査 大阪大学教授	飯部 聡								
論文審査の結果の要旨 妊娠中のカフェイン・コーヒー・茶類と妊娠高血圧症候群について検討を行った本研究では、現在も進行中の日本の母子コホートであるエコチル調査に参加した85533人の単胎妊娠で生産した妊婦を対象とした。妊娠中の食事摂取量についての食事調査票を使用してコーヒー・茶類（緑茶・ウーロン茶・紅茶）およびカフェインレスのコーヒー・茶類の摂取量および推定カフェイン摂取量を算出し、妊娠高血圧症候群との関連性の検討を回帰分析を用いて行い、カフェイン摂取が多いと妊娠高血圧症候群発症リスクが上昇する一方で、コーヒーを摂取するとリスクが低下することが示唆された。 以上の結果は、妊娠高血圧症候群の病態解明の一助になる可能性が期待でき、学位授与に値すると考える。									